

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立浜玉中学校
1 前年度 評価結果の概要	・コロナ禍の中で行事や学習活動に制限が入る一年であったが、生徒や保護者からは概ね学校の教育活動に対して評価をいただいており、評価項目は概ね達成できている。 ・いじめ問題への対応については未然の防止のために指導を重ねている。保護者との連携をさらに深め、早い段階でのいじめの認知、認知に努める。 ・コロナ禍において、昨年度に引き続き小中連携の実践がほぼできていない。来年度は学力向上を中心に据えた小中連携に力を入れていきたい。 ・業務改善・教職員の働き方改革については、少しずつ改善が進んでいるとはいえ、時間外勤務は依然として長い傾向にあり、今後一層の推進を図る必要がある。

2 学校教育目標	持続可能な社会の創り手となる生徒の育成 《めざす生徒像》 豊かな心で、未来を切り拓く生徒
----------	---

3 本年度の重点目標	1 学力の定着と資質・能力の育成（唐津市学力向上指定校） 2 心の教育（人権教育）の充実 3 いじめの早期発見・早期対応 4 キャリア教育の推進 5 地域とともにある学校づくり（いきいき学ぶからつつ子事業）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全教職員による共通理解と共通実践	●「唐津の学び」チェックシートの個人評価において、すべての項目の自己評価平均値を3.5以上	・全教職員で「唐津の学び」チェックシートを共有する。 ・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」のバランスのよい育成をめざし、ICT環境を最大限活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行う。 ・SDGsを意識した教育課程を編成し適切に実施する。	B	・「唐津の学び」チェックシートの自己評価平均値は2.65で成果指標を下回っている。 ・3つの資質・能力を育成する為に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を視点においた授業づくりに取り組み、今後も継続した取り組みを行っていく必要がある。 ・SDGsについては、特に環境保全の面で、ボランティアや講師招聘による授業や講話、生徒の研究など、学習活動の充実を図ることができた。	B	・学習状況調査結果が佐賀県平均を下回っている。今一つ頑張ってほしい。 ・臨時休校の際も自宅に個人のタブレットを持ち帰ってきており、課題に取り組んでいた。 ・SDGsに関しては、自分たちの身近なテーマを題材として興味を持てるようにしていただきたい。
	○教職員の指導力向上	○授業の内容が理解できているという生徒の割合を80％以上とする。 ○県学習状況調査結果の対県平均比を1.00以上	・授業の『めあて』を明示し、『振り返り』の場を設定することで、意欲的に学習に取り組む生徒を育成する。 ・新しい学習指導要領のねらいを具現化する教育活動及び学習評価を実施する。	B	・「めあて」の明示や「まとも」『振り返り』活動の充実を図った。また、単元を通した指導・評価計画や生徒の主体的な学びについて工夫改善を行った。 ・生徒アンケートでは、授業改善について80％以上が肯定的な回答であった。一方で県学習状況調査結果における対県比は、1年生は0.86～0.95、2年生は0.67～0.84と大幅に下回っており、多くの教科において、思考・判断・表現における課題が見られた。	B	・授業のめあてを明示し、生徒に理解させる活動計画を作成し、一人1回の研究授業を行うなど、授業改善に努めている。 ・成果指標について、理解できている生徒の割合を80％以上を目標とするなら、残り20％位の生徒の指導はどうされるのかと感じた。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生70％以上	・人権集会・平和集会や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・部活動や学校行事を通して、達成感や成就感を味わわせ、「感動」と「感謝」の心があふれる生徒を育成する。	A	・学年でローテーション道徳の計画を組み、調整しながら実施ができていた。 ・生徒・保護者のアンケート共に、肯定的な回答をした割合が94％を上回っている。しかし、教職員のアンケートでは前年度と比べて、否定的な回答がわずかばかり増加しており、授業や実践についての研修の必要性がある。	A	・道徳の担当をローテーションするなど偏った教育をなくし、生徒保護者の意見を生かしながら実践している。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていと回答した教職員90％以上	・生徒観察をはじめ、計画的に生活アンケートや教育相談、QUTテストを実施することで生徒の状況を把握し、未然防止・早期発見に努める。 ・いじめが発覚した場合は、早急に対策委員会を立ち上げ、保護者・関係機関と連携しながら解決を図る。	A	・肯定的な回答（100％）は昨年度の結果から引き続き高い水準を示している。その中でも「あてはまる」と回答した割合が71％で、昨年と比べて、約20％向上した。 ・全教職員でのタイムリーな情報共有や対応の組織的な生徒指導の成果が出ていると考えられる。	A	・学校だけでなく外部機関と連携しながら取り組まれている。今後も早期発見早期対応をお願いしたい。
	○浜玉中三訓の徹底	○自らあいさつができる生徒の割合を80％以上にする。	・生徒会活動で、生徒に自ら啓発を行わせることで、意識の高揚を図る。 ・生徒会を主体に毎朝あいさつ運動に取り組む。	A	・生活委員会を中心に挨拶の奨励を行い、学校評価アンケートの結果、94％の生徒が自ら挨拶を行っていると回答している。 ・生徒議会や生徒総会で浜玉三訓を議題にあげ、全校生徒が意識して学校生活を過ごしていくような取り組みを引き続き実践していく。	A	・今までの生徒・教職員の努力が実を結び、あいさつしない子がいなくらいに成果が出ている。 ・生徒間で浜玉三訓が浸透している。これからも継続的な指導をお願いしたい。
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	④全校生徒の朝食喫食率を90％以上にする。また、給食の残食をなくす。	・生活アンケートを実施し、朝食喫食率を把握し、給食だより等で保護者へ向けても情報を提供し、意識高揚と改善を図る。 ・生徒会保健部と連携を図り、残食チェックや給食指導の徹底を行う。	A	・朝食は93％の生徒が食べていると回答している。昨年度と比較しわずかに向上している。しかし、給食の残棄においては、偏食も多く残す生徒が固定化していて改善が見られない。そのため個別指導の必要性がある。	A	・みんな朝食をしっかりと食べているようだ。 ・給食の残食について、食事については家庭での偏食指導することが望ましいが、学校での偏食指導も重要だと思われる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・部活動複数顧問制を効果的に活用する。 ・部活動終了1時間後に退勤する。 ・会議日は「ノー残業DAY（定時退勤日）」とする。	B	・1ヵ月当たりの時間外労働が45時間以内である教職員の割合は、4月から1月末までの間で41％であったが、時間外勤務は依然として長い傾向にある。引き続き、水曜日のノー残業DAYや休暇の取得推進を継続して呼びかけていく。	A	・教職員アンケートでも子供と向き合う時間が必要だと感じている先生が多いのかもしれない。ノー残業デーの取り組みはいいと思う。
	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意） 時間外勤務を1月60時間以内、年360時間以内にする。 年次休暇の取得を10日以上取得した職員の割合を70％以上	・時間外勤務月平均60時間以下を達成できる教職員の割合を50％以上にする。	B	・4月から12月末までの時間外勤務については、1ヵ月60時間以内の達成率は72％。360時間の年間時間外勤務時数を達成できた割合は41％であった。昨年に比べ改善できた。 ・1月から12月までに10日以上年次有給休暇を取得した者の割合は50％で目標を下回る結果となった。	B	・取得率にばらつきがあると思う。 ・月平均60時間は普通に考えても多いため、それだけ先生方の仕事量が膨大だと感じた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育	○個々の生徒に応じたきめ細かい対応	○個々の生徒に応じた適切な支援ができていると回答した教職員70％以上	・教育支援部会や生徒支援協議会を通して、支援について共通理解、共通実践を行い、支援体制を強化する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、積極的に支援会議を実施する。	A	・教育支援部会や生徒支援協議会を通して、共通理解、共通実践ができた。 ・個々の生徒に応じた適切な支援ができていると回答した教職員は95％であり、成果指標は達成することができた。 生徒のアンケートにおいても昨年比14％増の91％であった。	A	・学校全体が一つになって生徒たちに対する支援体制を整え充実した学校生活を送ることができている。 ・可能なら、人員にも余裕をもって十分な時間をかけていただきたいと思う。
○志を高める教育	◎キャリア教育の推進と情報提供の充実	◎夢や目標をもち、その実現に向けて努力している生徒の割合を70％以上にする。	・自己理解を深めさせるとともに、働くことへの目的や意義について、教科横断的に取り組む。 ・生徒の望ましい進路実現のため、適切な進路に関する情報を提供する。 ・キャリアパスポートを活用しキャリア教育の充実を図る。	A	・コロナとの共存から、2年ぶりに職場体験学習を実施した。この体験を通して、働くことについて考え、先を見越して自分の進路についても考えるようになった。 ・夢や目標をもち、その実現に向けて努力していると回答した生徒の割合は79％で、目標を達成することができた。	A	・子供たちは親をはじめとし、周りの大人から「働くことは」を学ぶと思う。授業中だけに限らず、折を見ては進路実現のヒントを伝えていただきたいと思う。 ・生徒の夢や目標に向かって適切に行動している生徒たちが育っている。今後の継続指導をお願いしたい。
○小中・地域連携	○小中連携と地域連携の充実	○小中連携や地域連携を図り、生徒の教育活動の充実が図れたと回答する教職員が70％以上にする。	・小中連携会議を実施して、小中連携を推進する。 ・本校の方針を発信するとともに、全教職員が地域との協働の意識を高め、理想的な関係づくりを推進する。	A	・コロナ禍であったが、小中連携による松原清掃活動や職場体験学習を設定した結果、教職員の肯定的な回答は66％であった。	A	・コロナ明けには、地域を巻き込んで活発な活動を行って欲しい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学力の向上について、職員も生徒・保護者も授業改善がなされていると捉えているものの、本県学習状況調査の結果に結びついていない。知識・技能の確実な定着を図りつつ、思考力・判断力・表現力を育む単元を通した授業改善に取り組む。 ・業務改善・教職員の働き方改革について改善は見られるものの、依然として長時間勤務状態が続いている。校務分掌の平準化や年度途中においても柔軟に業務の割り振りを変更するなど業務改善に取り組む。 ・コロナ禍ではあったが、海岸清掃など一部で小中連携の実践を再開した。来年度は小中連携教育を再開し、心の教育・学力向上に力を入れていきたい。
----------------	--